

## 授業改善等に関する報告書（2025年後期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2025 (後期) 図書館学課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
図書館制度・経営論	須賀 千絵	成績の自己評価がやや低く、フリーコメントでも「内容が難しかった」という意見が一部にみられました。文学部の受講生が多いため、経営や政治の分野の関心がもともとそれほど高くはないことや、政治の問題は正解がないことによるものであると思われます。しかし一方で、授業のトラブル対応の演習では、熱心に取り組んでいる様子が見られました。日常と接続するような内容を取り入れ、学生の関心が高まるような授業となるように工夫していきたいと思いました。
図書館制度・経営論	須賀 千絵	多くの学生が「意欲的に取り組んだか」という設問に「とても」あるいは「どちらかといえば」あてはまると答えていることを嬉しく思いました。トラブル対応を取り上げたグループワークでは積極的に発言してくれた学生も多く、学生相互、また教員にとっても、話し合いを通して学びを深めることができました。
情報サービス論	橋詰 秋子	「情報サービス論」は、レファレンスサービスの理論と実践を扱う内容であり、計3回の授業内課題やグループワークなど、アウトプットを重視した構成としました。アンケート結果では「理解度」および「成長実感」の項目で高い評価を得られました。能動的な学習形態が、学生の確かな手応えにつながったと考えています。
児童図書館サービス論 b	須賀 千絵	「意欲的に取り組んだか」「さらに学びたいと思ったか」という項目の評価が比較的高く、読みきかせや情報サービスなどの演習を通して、児童サービスのおもしろさに気づいた学生が多かったようで、担当教員として、大変うれしく思いました。フリーコメントでも、これらの演習について触れたものが多くあり、実際にサービスを体感することが印象的であったことがわかりました。
児童図書館サービス論 b	須賀 千絵	「成長が実感できたか」「さらに学びたいと思ったか」という項目の評価が比較的高く、演習を通して、児童サービスのおもしろさに気づいた学生が多かったようで、担当教員として大変うれしく思いました。今後、何かの機会に、家庭や地域で読みきかせなどの読書推進の活動に関与する機会も訪れると思うので、この授業で得たものを生かしてもらいたいと思います。
情報サービス演習 b	橋詰 秋子	本科目は各種データベースの検索技法の習得を目的としており、検索に苦勞する受講生の姿も見受けられました。その影響もあってか、理解度の項目は平均をやや下回る結果となりました。しかし一方で「成長を実感した」回答が多く得られました。今後も、個別フォローを充実させるなど工夫していきたいと思います。
図書館情報資源概論 b	須賀 千絵	健康医療情報というあまりなじみのない分野の資料選択をとりあげましたが、「満足度」や「意欲的な取り組み」の評価が比較的高く、熱心に授業に取り組んだ様子がうかがえました。これらの項目に比べて、「さらに学びたいと思ったか」という評価がやや低いことが残念でしたが、今後の人生の体験を通じて、次第に関心が高まることを期待しています。
図書館情報資源概論 b	須賀 千絵	健康医療情報というあまりなじみのない分野の資料選択をとりあげましたためか、一定の「満足度」はあったものの、それに比べて「意欲的な取り組み」「さらに学びたい」の評価がやや低かったことが残念でした。フリーコメントでは、エビデンス情報など、新たな知識を得たことが印象的という声もあったので、多くの学生がさらに関心を持てるよう、教材等を工夫していきたいと思います。
情報資源組織演習 b	村上 篤太郎	授業アンケートの集計結果によれば、「Ⅱ. この授業の内容と方法について」の各項目は、いずれも全体平均を上回る評価を得ることができた。また、総合的満足度は、全員が「とてもよくあてはまる」と評価をしてもらい、総合満足度とのクロス集計においても、各項目の評価は「大変満足」および「どちらかといえば満足」に、ほとんどが集約されており、授業全体に対する肯定的な評価が確認できた。教材については、事前準備に十分な時間をかけ、内容構成や視認性に配慮して作成したことが、理解のしやすさにつながったものと考えられる。さらに、本科目は演習形式であることから、受講者にマイクを回し、随時発言を促す運営方法を採用した。こうした双方向的な進行により、受講者の参加意識や主体的な関与を一定程度高めることができたかと判断している。
情報資源組織演習 b	村上 篤太郎	授業アンケートの集計結果によれば、「Ⅱ. この授業の内容と方法について」の各項目は、いずれも全体平均を上回る評価を得た。なかでも「10. 担当教員の声や言葉は、聞き取りやすかったですか?」については、全員が「とてもよくあてはまる」と回答しており、授業運営において明確な発声と的確な説明を意識してきた成果と受け止めている。また、総合的満足度とのクロス集計においても、各項目の評価は「大変満足」および「どちらかといえば満足」に集約されており、授業全体に対する肯定的な評価が確認できた。教材については、事前準備に十分な時間をかけ、内容構成や視認性に配慮して作成したことが、理解のしやすさにつながったものと考えられる。さらに、本科目は演習形式であることから、受講者にマイクを回し、随時発言を促す運営方法を採用した。こうした双方向的な進行により、受講者の参加意識や主体的な関与を一定程度高めることができたかと判断している。

[2025 (後期) 図書館学課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
情報資源組織演習 b	橋詰 秋子	<p>本科目は主題組織法の演習であり、分類や件名付与の細かなルールを習得する必要があるので、例年、演習では苦勞する受講生も少なくなく、理解度も低い傾向にありました。しかし、今年度は受講生が熱心に学んでくれ、「理解度」「成長度」ともに高い数値を示していました。教員として、大変うれしく思っています。</p>
図書館総合演習	橋詰 秋子	<p>専門図書館での読書イベント企画という、実践的で負担の大きいPBL型授業でしたが、受講生は主体的に完遂してくれました。アンケートでも満足度・成長度ともに高く、この経験が履修生の大きな自信につながったことを嬉しく思います。</p>
学校図書館情報サービス論	吉澤 小百合	<p>半年間授業をご受講頂き、有難うございました。本科目は学校司書モデルカリキュラムの一科目でありながら教科書等はまだまだなく、国内において内容が模索されている科目です。今期は特に探究学習の場を想定したレファレンスインタビューや、具体的な読書活動（POP作成）、利用指導案のデモンストラーションを集中的に行いました。ハードだったのではないかと心配もしたのですが、意欲的に取り組んで下さったという回答が多く見られ、講師自身もそのように感じており、心より感謝しております。授業内で行った詳細なアンケートを元に、改善を重ねていきます。本授業で行ったことが、皆さんの一つの自信になって下されば幸いです。</p>